

国宝キトラ古墳壁画「辰」「巳」「申」について

国立文化財機構古墳壁画PT修復班（壁画担当）

国宝キトラ古墳壁画の辰・巳・申の現在の状態は、暫定的なレーヨン紙と HPC の養生の上に和紙を重ねたものである。処置から 13 年が経過し（平成 22 年取り外し・封入）、接着力の低下による剥離や、レーヨン紙の劣化などが見られ、現状のままでは、漆喰片の劣化を誘発する状況である。

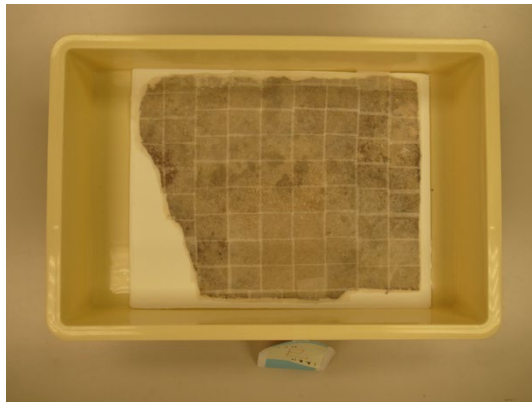


写真1 「巳」の現状保管状況



写真2 「辰」の現状保管状況



写真3 「申」の現状保管状況

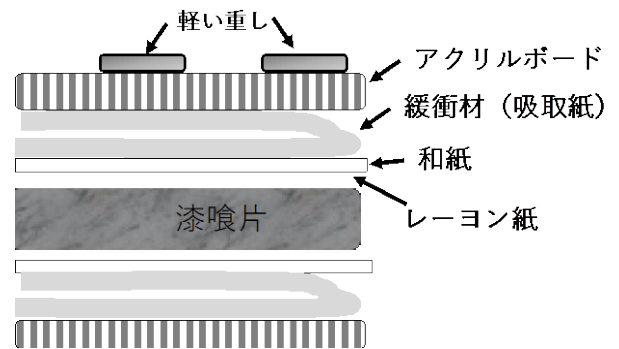


図1 現状の断面模式図



写真4 表面保護のためのレーヨン紙や和紙が剥離している様子



写真5 レーヨン紙の劣化（変色）

安定化処理について

現在の仮養生の状態ではなく、再構成した漆喰片と同様の安定化処置を行う必要があるため、来年度から実施していきたい。